

2019年12月期 決算説明資料



株式会社 ヴィンクス 2020年 2月 28日

証券コード:3784



新型コロナウイルス感染症の影響と当社の対応について

新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

中国では、湖北省武漢市を中心として、新型肺炎が流行していることを踏まえ、地域によっては、春節明けも企業の業務開始への制限を指示されています。

当社の中国子会社ヴィンクスチャイナ(VCC)のある浙江省杭州市においては、 2/15(土)より業務再開の承認を受け、段階的に稼働範囲を拡大している状況です。

VCCで行っている、システムの運用監視業務およびオフショア開発業務については、 日本と相互バックアップが可能なものであるため、日本側の体制を強化して対応し、 ヴィンクスグループとしての業務遂行には問題ございません。 問題が長期化する場合も想定した体制とすることで、顧客影響は最小限に抑えております。

現時点では、当社の連結業績に与える影響は軽微となる見通しです。 今後、影響が拡大した場合は、速やかに公表いたします。

以上

目次



1. 2019年12月期の決算概要	
・決算ハイライト、分野別状況	⋯P5~7
2. 2019年12月期の主なトピックス	
・営業活動における主なトピックス	⋯ P9
・成長する小売業を支えるVINX	⋯P10
・主要プロダクトの実績状況 <pos関連>、店舗システム関連の実績、 主要プロダクトの実績状況<md・自動発注>、R P Aの導入状況</md・自動発注></pos関連>	⋯P11~15
・トピックス①②	⋯P16~17
3. 中期方針および2020年度計画	
・中期方針	⋯P19
·2020年度 方針·施策	⋯P20
・VINXが進めるニューリテール	⋯P21
·2020年度 数値計画 (連結)	⋯P22
・数値フレーム計画(連結)	⋯P23
・当期および次期配当の見通し	⋯P24
【ご参考】B/SおよびC/F	
・財政状況、キャッシュ・フローの状況	⋯P26~27

Copyright © 2020 VINX CORP. All Rights Reserved.



2019年12月期の 決算概要

決算ハイライト



【2019年12月期 総括】

売上高につきましては、キャッシュレス化・POS関連案件及び消費税増税・軽減税率対応案件の増加などにより、 計画値・前年値ともに上回りました。

利益面につきましては、売上高の増加および原価率の改善の結果、各段階利益が前年同一期間を上回りました。

単位:百万円(百万円未満切捨て)

科目名	(2019	9年度 年1月~ 年12月)	当初計画対比 (2019年2月13日発表)					(2018	期間 (※) 年1月~ 年12月)	
	実績値	売上比	計画値	計画比	計画差	売上比	前期 同一期間 実績値	前期 同一期間 比	前期 同一期間 差	売上比
売上高	29,748	_	26,500	112.3%	3,248	_	25,624	116.1%	4,123	_
売上総利益	6,491	21.8%	5,791	112.1%	700	21.9%	5,459	118.9%	1,031	21.3%
販売管理費	4,821	16.2%	4,441	108.6%	380	16.8%	4,132	116.7%	689	16.1%
営業利益	1,669	5.6%	1,350	123.7%	319	5.1%	1,327	125.8%	342	5.2%
経常利益	1,652	5.6%	1,315	125.7%	337	5.0%	1,314	125.7%	338	5.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,099	3.7%	824	133.4%	275	3.1%	757	145.1%	341	3.0%

※2018年度は、決算期変更の移行期間により、 2018年4月1日から2018年12月31日までの 9ヶ月間を対象期間としておりました。

分野別状況



- 1. アウトソーシング分野につきましては、大手顧客の既存システムの統廃合、コスト見直しにより、運用・ソフト保守の売上高が前年同一期間の実績値を下回りましたが、計画していた売上高、営業利益とも上回りました。
- 2. ソリューション分野につきましては、消費税増税関連の対応の拡大により、計画値、前年同一期間実績値を上回りました。
- 3. プロダクト分野につきましては、POS案件の拡大により、売上高、営業利益とも計画値、前年同一期間実績値を上回りました。

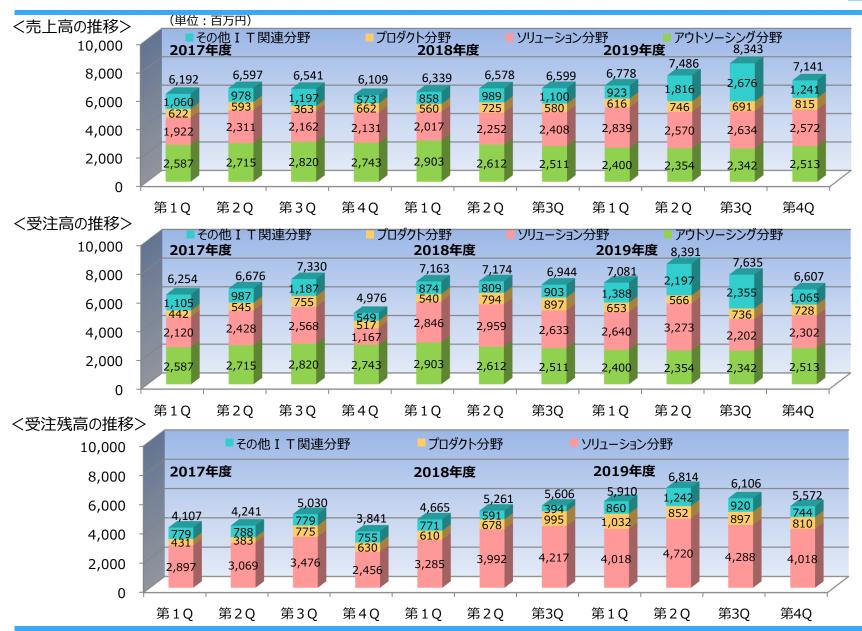
					単位:百2	5円、% 百万円未	満切り捨て	
【売上高】	2019	2019年度 当初計画対比 前年同一期間						
分野	実績値	売上比率	計画値	計画比	計画差	前年 同一期間 実績値	前年 同一期間 比	前年 同一期間 差
アウトソーシング分野	9,609	32.3%	9,445	101.7%	163	10,779	89.1%	▲ 1,170
ソリューション分野	10,615	35.7%	10,276	103.3%	339	8,808	120.5%	1,807
プロダクト分野	2,868	9.6%	2,480	115.6%	387	2,516	114.0%	351
その他IT関連分野	6,655	22.4%	4,296	154.9%	2,358	3,520	189.0%	3,134
合計	29,748	100.0%	26,500	112.3%	3,248	25,624	116.1%	

【営業利益】	2019	年度	븰	4初計画対比		前年同一期間		
分野	実績値	売上比率	計画値	計画比	計画差	前年 同一期間 実績値	前年 同一期間 比	前年 同一期間 差
アウトソーシング分野	629	6.6%	498	126.2%	130	526	119.6%	103
ソリューション分野	799	7.5%	607	131.5%	191	562	142.1%	236
プロダクト分野	153	5.3%	150	101.5%	2	151	101.0%	1
その他IT関連分野	87	1.3%	92	94.7%	▲ 4	87	100.8%	0.6
合計	1,669	5.6%	1,350	123.7%	319	1,327	125.8%	342

Copyright © 2020 VINX CORP. All Rights Reserved.

分野別状況







2. 2019年12月期の主なトピックス

営業活動における主なトピックス



事業の拡大 リテール

ドラッグ ストア ●次期POSシステム

全国に展開する大手ドラッグストア様よりPOSシステムの開発・導入展開案件を受注いたしました。

ドラッグ ストア他 キャッシュレス対応

ドラッグストア・100円ショップ・大手スーパー等のお客様より、キャッシュレス対応案件を 受注いたしました。

食品 スーパー他 R P A (Robotic Process Automation ※)

食品スーパー等のお客様より、R P A の導入案件を受注いたしました。また『BizRobo! Family Awards 2019』において、R P A の販売活動について表彰されました。

※これまで人間が行ってきた定型的なパソコン操作をソフトウェアのロボットにより自動化することをいいます。

専門店他

AI関連

専門店や大手スーパー等のお客様とAIを活用した需要予測や来店客数予測等を実店舗にて推進いたしました。

事業の拡大グローバル

コンビニ エンスストア 会計システム

大手コンビニエンスストアの海外現地法人より、F C会計システム案件を 受注いたしました。

事業の拡大特定顧客

スーパー

消費税増税·軽減税率対応

大手総合小売業グループや大手スーパー等のお客様より、消費税増税・軽減税率対応のシステム改修案件を受注いたしました。

流通・ サービス 決済システム

全国にショッピングモールを展開するディベロッパー法人様より、 ORコード決済に対応するシステム改修案件を受注いたしました。

成長する小売業を支えるVINX



各業種・業態をリードする小売業が続々とVINXを採用。特定のメーカーに依存せず、 キャッシュレス等の環境の変化に柔軟に対応できるVINXが支持されています。

A retail ai



トライアルグループ様の カートPOSの開発を支援。 合弁会社㈱Retail SHIFTを 設立し、共同で外販予定。





ツルハドラッグ様へマルチ決済 ソフト「SoftWareCAT」を提供。 キャッシュレス決済手段の拡張に 柔軟に対応。



フジ様向けにMDwareとANY-CUBE Neoを導入いただき、 複数のメーカーハードを連携 させるとともに、キャッシュレス 決済に対応。

大手アパレル・ ファッションブラント"×VINX 企業様

ファッション業界特化型POSの 開発を支援。グループ以外にも 外販中。

大手100円 ショップ企業様



ANY-CUBE Neoを提供。 F Cも含め、複数のメーカーの ハードを採用。キャッシュレス決済 に対応。

大手家具・

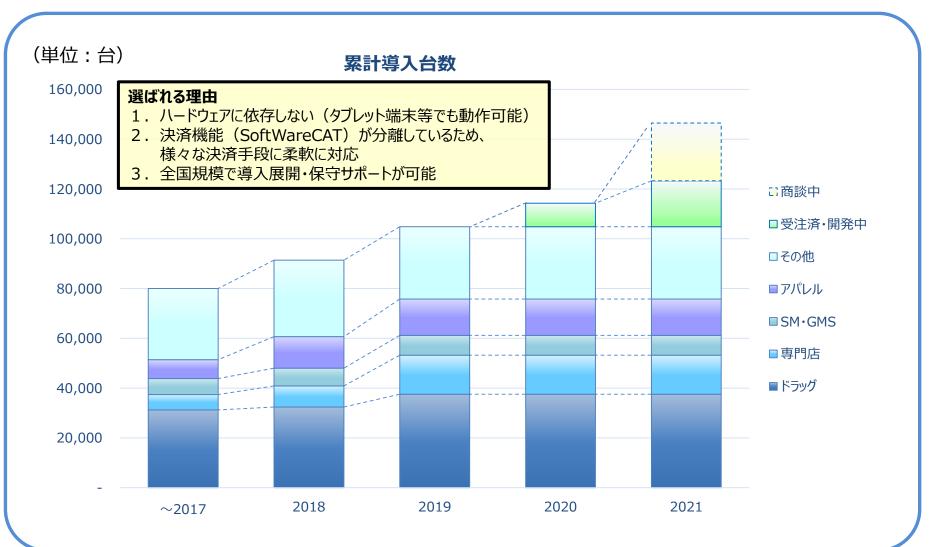
インテリア専門店 × VINX 企業様

ANY-CUBE Neoを提供。 キャッシュレス決済に対応。

主要プロダクトの実績状況 <POS関連>



POSパッケージ(ANY-CUBE·SoftWareCAT)の導入は、順調に推移しております。

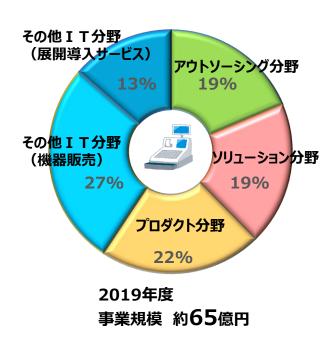


店舗システム関連の実績



お客様とのお取引は、プロダクト分野であるPOSパッケージ販売に加えて、ソリューション分野、その他 I T 分野(機器販売・導入展開)、およびアウトソーシング分野(ヘルプデスク・保守・運用・監視) のビジネスを推進しております。

【店舗システム】 <POS関連の売上比率>



く統合ヘルプデスク業務> (アウトソーシング分野)

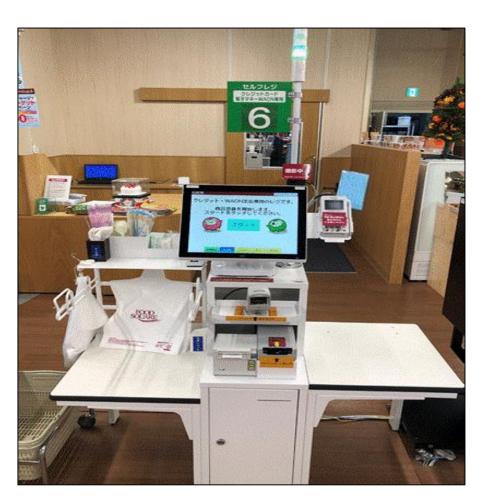


管理端末数 約130,300台

主要プロダクトの実績状況 <POS関連>



汎用ハードウェアによるキャッシュレス・セルフPOS



グローバル的な汎用ハードウェアの組合わせによりキャッシュレス・セルフPOSをお客様と共同で実現。

クレジット、電子マネー、QR決済等の キャッシュレス決済にも柔軟に対応。 従来製品より安価かつ短納期で構築可能。

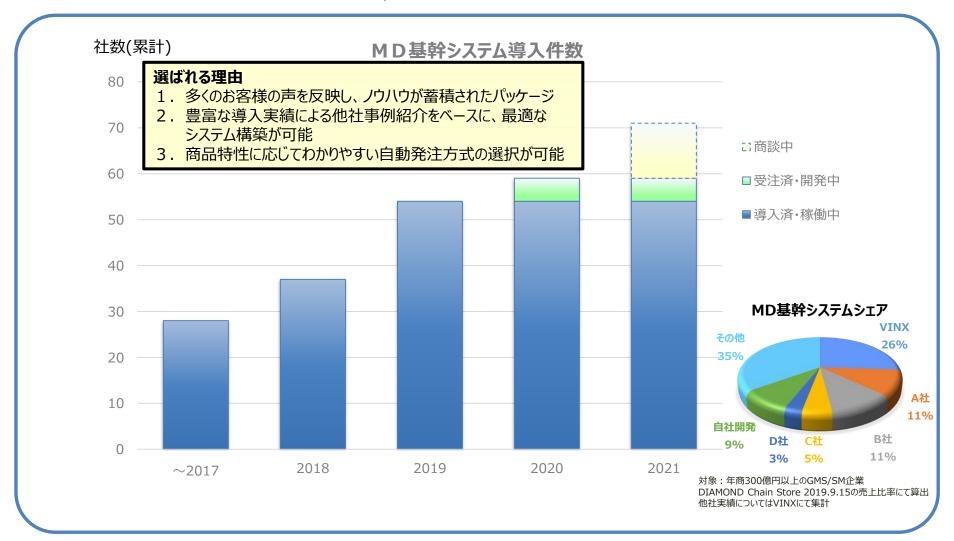


株式会社カスミ様 筑波大学店にて稼働

主要プロダクトの実績状況 <MD·自動発注>



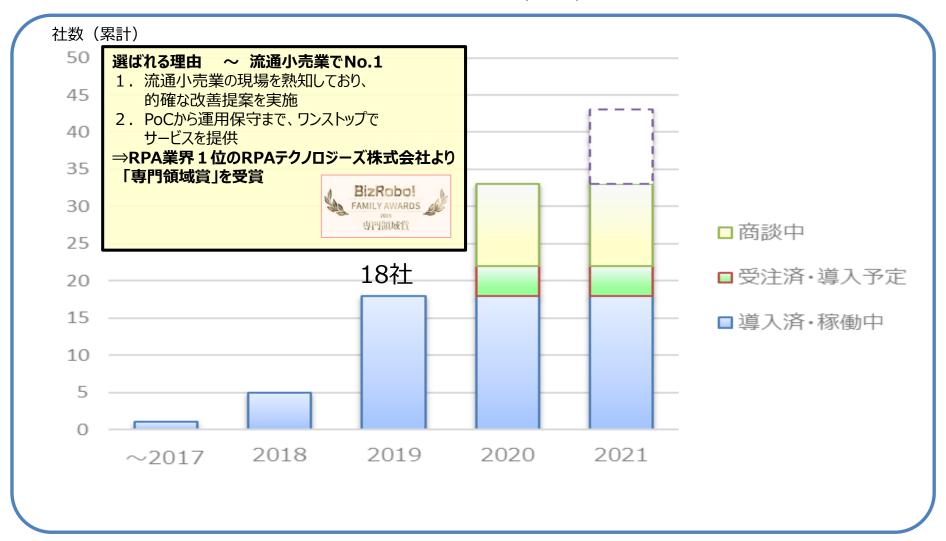
2019年度に導入済・稼働中は、54社。現在、受注済・開発中は5社です。 年商300億円以上のGMS・SM企業では、シェア26%。



RPAの導入状況



2017年よりBizRobo!の販売パートナーとして、流通小売業のお客様を中心に RPA導入を推進。導入社数は順調に推移し、お客様の業務改善に貢献しております。





株式会社セールスフォース・ドットコム様との協業

グローバルOMOの実現に向けてSalesforceと連携し、E Cとリアル店舗の在庫管理・受注管理を統合するシステムを提供してまいります。



Salesforce Platform

Salesforce Commerce Cloudは、日本でシェアを拡大中ですが、海外製品の為、"日本の後方業務"にあった バックオフィス機能のシステムがなく、導入各社が独自で構築しなければならないというハードルがあります。 今回、VINXがSalesforceのクラウド上でシステム提供し、導入を容易にします。

また今後、サービスの追加や両社の製品連携を強化し、小売DX基盤として拡充してまいります。

(デジタルトランスフォーメーション)



株式会社Ui2の子会社化について

当社は株式会社Ui2(以下「Ui2社」)の発行済株式の過半数を取得し、連結子会社化致しました。

U i 2 社は、2011年の設立時より E Cサイトの構築や運営に携わり、多くの大手 E Cサイトの構築実績があります。 また、グローバル人材の採用により、近年のトレンドであるアジア、A S E A Nへのグローバル D 2 Cサイトの構築も 手掛けております。

デジタルトランスフォーメーションのニーズが高まる中、E Cサイトの構築や運営に実績のあるU i 2 社との資本提携により、今後も成長が見込まれる E C事業における E Cサイト構築や運営の強化を図るとともに、U i 2 社の顧客への当社の P O S、C R M、M D などパッケージの提案により、両社のシナジーが生まれると考えております。

<所在地>

東京都港区芝五丁目13番15号 芝三田森ビル7階

<事業内容>

ECサイト構築・モバイルプロモーション 他



ヴィンクスグループは、Ui2社をグループの一員に迎えることにより、デジタルトランスフォーメーション領域におけるビジネスを一層強化し、高品質なサービスを提供してまいります。



3. 中期方針および 2020年度計画

中期方針



経営理念

ビジョン

方 針

「人々のくらしと流通企業のビジネス活動を情報システム技術で融合し、豊かな社会の実現に貢献します。」

アジアにおける流通ITのリーディングカンパニーを目指す

流通ITの変革をリードし事業拡大を目指す

①ニューリテール戦略

②特定顧客事業深耕戦略

③プロダクト事業強化戦略

④リテールソリューション事業拡大戦略

⑤グローバル市場拡大戦略

⑥カード事業強化戦略

⑦経営基盤強化

ニューリテール分野への取り組みを強化し、流通IT変革をリードし、リーディングカンパニーを目指す。

お客様のビジネス変革の波をとらえ、営業・開発体制の強化を行う。また、新たな特定顧客となる小売卸業の変革を支援するソリューションを提案し、事業規模を拡大する。

ANY-CUBE、MDware等、コア製品の競争力を強化する。AI・ロボット技術・スマートストア・キャッシュレス等のニューリテール分野の技術変革を取り入れた製品開発を行う。

メーカーに対して中立という方向を活かした提案を強化するとともに、飛躍的な事業拡大を実現できる体制を構築する。

マレーシアを中心にアセアン事業を統括し、既存のお客様との関係を強化すると共にローカル顧客の獲得を行う。

お客様との新たな関係を構築し、主要ITベンダーとしての事業拡大を行う。

ストック・サービス事業の拡大 (安定基盤事業(50%以上))と業務提携等による事業基盤拡大を目指す。採用強化及び教育により生産能力を拡大する。

2020年度 方針·施策



既存ビジネスの高度化とニューリテール事業の具現化

1. ニューリテール戦略

- (1)ニューリテール分野の企画開発の強化
- (2)カート型POS、無人店舗、キャッシュレス等の 次世代ソリューションの拡販
- (3)スマートシェルフの活用等、ITによるプロモーション サービスの強化

2. 特定顧客事業深耕

- (1)既存特定顧客との関係強化と新規顧客の 特定顧客化に向けた営業および開発体制強化
- (2)特定顧客向けの保守・運用業務まで含めた ITフルアウトソーシングサービス事業の更なる効率化
- (3)統合ヘルプデスクサービス等、ストック・ビジネスの拡大に向けた共通基盤構築

3. プロダクト事業強化

- (1)既存プロダクトにAI等のニューリテール分野の技術を 活用した高度化を推進
- (2)プロダクト製品ラインナップの拡充
- (3) A I や自動認識技術等、国内外の優れた要素技術の 精極的な活用

4. リテールソリューション事業拡大

- (1)POS・MDシステム等のコア製品の拡販と 保守サービス等のストックビジネスの拡大
- (2)EC・専門店ビジネスの拡大

5. グローバル市場拡大

- (1)アセアン地域における既存特定顧客に向けた体制強化
- (2)海外パートナーとのアライアンス推進とグローバルプロダクト の販売拡大に向けた営業・開発・サービス体制強化

6. カード事業強化

開発体制強化

7. 経営基盤強化

- (1)営業体制の強化による受注拡大
- (2)運用サービス等の業務効率化の推進
- (3)安定基盤事業であるストック・サービス事業への事業構造転換
- (4)業務提携・資本業務提携・M&Aによる事業基盤拡大
- (5)品質管理の強化とプロジェクト管理体制の強化
- (6)働き方改革による社員の士気とモチベーションの向上

VINXが進めるニューリテール



ニューリテール化の潮流に対して、VINXでは柔軟にシステム対応ができる仕組みを推進しております。

<3つの潮流>

1. スマートストア化

①AIによる来店客数予測と自動発注精度の向上

POS

- ②AIによる需要予測・ダイナミックプライシング
- ③カートPOS
- ④AIによる防犯



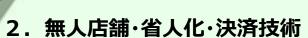
3. ネットとリアルの融合

①Webシステム (受発注・在庫管理等、 バックオフィス業務のOMO) ②スマートシェルフによる

店舗のメディア化



スマート シェルフ



- ①SoftWareCATによるキャッシュレス決済 手段の多様化に柔軟に対応
- ②無人店舗VINX STOREの運営
- ③次世代セルフPOS
- ④RPAによる省人化
- ⑤リテールプラットフォーム 構築による決済シーンの 多様化への対応 (各種POS)



次世代セルフPOS



2020年度 数値計画 (連結)



当社グループは「流通系ITシステムに特化した業界最大規模のIT企業」として 既存事業を高度化させるとともに、ニューリテール事業を具現化させ、事業の 持続的な成長を目指します。

単位:百万円

連結	2020年度						
	計画値	売上比	前年比				
売上高	30,700	1	103.2%				
売上総利益	6,573	21.4%	101.3%				
販売管理費	4,853	15.8%	100.6%				
営業利益	1,720	5.6%	103.0%				
経常利益	1,696	5.5%	102.6%				
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,113	3.6%	101.3%				

数値フレーム計画(連結)



単位:百万円(百万円未満切捨て)

											ואר וראדו) וור	
	連結	売」	上高	営業利益		経常利益			親会社株主に帰属する 当期純利益			
			前年比		前年比	利益率		前年比	利益率		前年比	利益率
※ 1	2018年度 実績	19,515	- (101.0%)	916	- (107.7%)	4.7%	893	- (105.7%)	4.6%	464	- (100.8%)	2.4%
 2	2019年度 実績	29,748	- (116.1%)	1,669	- (125.8%)	5.6%	1,652	- (125.7%)	5.6%	1,099	- (145.1%)	3.7%
	2020年度 計画	30,700	103.2%	1,720	103.0%	5.6%	1,696	102.6%	5.5%	1,113	101.3%	3.6%
	2021年度 計画	32,300	105.2%	1,800	104.6%	5.6%	1,776	104.7%	5.5%	1,165	104.7%	3.6%
	2022年度 計画	35,600	110.2%	2,000	111.1%	5.6%	1,976	111.3%	5.6%	1,297	111.3%	3.6%

^{※1 2018}年度は、決算期変更の移行期間により、2018年4月1日から2018年12月31日までの9ヶ月間を対象期間としております。 このため、前年比については記載しておりません。 ()の数値は同一期間(2017年4月1日から2017年12月31日まで)との比較となります。

※2 2019年度(2019年1月1日から2019年12月31日まで)は、2018年1月1日から2018年12月31日までの 同一期間との比較となります。

当期および次期配当の見通し



配当方針

当社は、株主様への利益還元を経営の重要課題のひとつとして認識しており、配当金につきましては、企業価値の向上とその水準の維持を可能とする範囲において、事業拡大のための内部留保を勘案しながら決定することを基本方針としております。内部留保資金につきましては、今後予想される事業規模拡大のため新規事業及び新製品の開発に対し有効に投資して参ります。

配当見通し

(単位:円,1株あたり)

	中間配当金	期末配当金	年間配当金合計	配当性向(連結)
2018/12月期 ※	5	2.5	7.5	28.6 %
2019/12月期	5	8	13	19.9 %
2020/12月期(予想)	6.5	6.5	13	19.6 %

※2018/12月期(2018年度)は決算期変更により、2018年4月1日から2018年12月31日までの9ヶ月間となっております。従いまして、期末配当金につきましては、9ヶ月決算であることにより、1株当たり2円50銭としております。



【ご参考】B/SおよびC/F

Copyright © 2020 VINX CORP. All Rights Reserved.

財政状況



【貸借対照表】

単位:百万円、%、百万円未満切捨て

<u> </u>						
	2019 [£] 12月期	-	2018年 12月期末	差額		
区分		構成比 (%)				
流動資産	10,832	64.0	10,487	344		
固定資産	6,081	36.0	5,621	459		
<有形固定資産>	1,697	10.0	1,180	517		
<無形固定資産>	2,171	12.8	2,595	▲ 423		
<投資その他の資産>	2,211	13.1	1,845	366		
資産合計	16,913	100.0	16,108	804		
流動負債	5,960	35.2	5,465	494		
固定負債	2,838	16.8	2,344	493		
負債合計	8,799	52.0	7,810	988		
純資産	8,114	48.0	8,298	▲183		
負債・純資産 合計	16,913	100.0	16,108	804		

<貸借対照表のポイント>

新オフィス移転に伴い、有形固定資産が増加しました。 また自己株式を取得しました。 前期比の主な増減要因は、以下の通りです。

•資産

現金及び預金1億70百万円増加商品2億 2百万円増加建物及び構造物5億 2百万円増加

・負債

未払金3億円増加短期借入金9億41百万円減少未払法人税等4億56百万円増加長期借入金6億73百万円増加

•純資産

利益剰余金 9億70百万円増加 自己株式取得 12億67百万円減少 新株予約権 82百万円増加

Copyright © 2020 VINX CORP. All Rights Reserved.

キャッシュ・フローの状況



単位:百万円、百万円未満切捨て

税金等調整当期純利益	1,666
減価償却費	1,096
その他	422
小計	3,185
利息、法人税等の支払額等	▲88
営業活動によるキャッシュ・フロー ①	3,096
有形固定資産の取得による支出	▲ 699
無形固定資産の取得による支出	▲285
差入保証金の差入による支出	▲ 500
その他	25
投資活動によるキャッシュ・フロー ②	▲ 1,459
短期借入れによる収入	3,529
短期借入金の返済による支出	▲ 4,470
長期借入れによる収入	1,267
自己株式の取得による支出	▲ 1,267
その他	▲ 515
財務活動によるキャッシュ・フロー ③	▲ 1,456
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 16
現金及び現金同等物の増減額(▲は減少)	164
現金及び現金同等物の期首残高	4,081
現金及び現金同等物の当期末残高	4,246

<キャッシュ・フロー計算書のポイント>

当期連結累計期間における現金及び現金同等物の 残高は42億46百万円となりました。 詳細は以下の通りです。

- ①営業活動によるキャッシュ・フロー 営業活動の結果、30億96百万円増加しました。
- ②投資活動によるキャッシュ・フロー 投資活動の結果、14億59百万円減少しました。

<主な要因>

- ・有形固定資産の取得 新オフィスへの移転
- ・無形固定資産の取得 プロダクトソフトウェアの開発等
- ・差入保証金の差入 新オフィスへの移転に伴う敷金の差入
- ③財務活動によるキャッシュ・フロー 財務活動の結果、14億56百万円減少しました。

<主な要因>

・自己株式の取得

本資料の取扱のご注意



本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資 勧誘を目的としたものではありません。

正確性を期すために慎重に行っておりますが、正確性・完全性を保証するものではありません。

また、本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で 入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや 不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、 実際の業績は当社の公表している将来見通しとは大きく異なる結果となる場合 があることをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

株式会社ヴィンクス 企画本部 経営企画部 e-mail: ir@vinx.co.jp